

## 平成29年度 第3回 倫理審査委員会の記録概要

開催日時：平成29年10月24日(火) 16:30～16:55

開催場所：独立行政法人国立病院機構菊池病院 会議室

出席委員名：本田臨床研究部長、幸薬剤科長、大木事務部長、村田看護部長、飯田外部委員、緒方外部委員

審議事項 申請番号 2544

【課題名】 認知症患者の意志の表出を支援する  
～家族とのかけがえのない日々を支えるケア～

【申請者】 北原副看護師長

【概要】 認知症の人は認知機能や判断力の低下などによって様々な行動・心理症状を引き起こす。なかでも感情のコントロールが出来なくなると混乱し、落ち着かず興奮しやすくなる。認知症の人の攻撃的な行為や妄想は、自宅や施設で介護する人に不信感を抱かせるだけでなく、恐怖に陥らせてしまう。認知症を患うまでは、家庭内で日常的に家族とコミュニケーションをとり、家事や仕事でまとめ役としての役割を果たし、かけがえのない存在として、支え合ってきた。認知症の発症は些細な誤解による家族関係の悪化の誘因の一つとなり、修復は難しく険悪な状況に陥ってしまう。身体の状態悪化に伴い医療行為が必要になると、支える家族は決断を迫られ悩みながら迷い続けている。日本老年医学学会では、医療者には、自己表出が不得手な患者に対して、真の希望を話すことを促す援助や、真に希望することを洞察する能力が要求されると表明している。

また、田中は、事象を高齢者のまなざしで捉え、語られた言葉の蓄積を基になされた研究は、当事者しか知り得ない老いの側面を明らかにしてくれる。と述べている。

認知症看護認定看護師として認知症の人の意思を尊重し権利を擁護するために、認知症の人の気持ちに目を向け理解を促しながら、些細な誤解を解き意思を汲み取ることは出来ないかと考えた。他者への迷惑行為によって環境調整、薬物療法のために入院し、家族の面会が少ない患者を対象に認知症患者のエンパワーメントを促す関わりを行うことは、意志を表出させ家族支援に導くうえで必要であると感じている。それは今後、人権問題に発展しかねない意思決定の不十分さを早期に解決する上で重要である。本人の気持ちや願いを知った上で、認知症患者にとって効果的な同意能力の評価を行い、最期まで納得のいく生き方に反映させたいと考えている。そこで医療従事者向け意思決定支援ガイドをもとに認知症患者の同意能力を正確に評価し、理解を助けることで意思決定の可能性を広げることを目的としてこの研究を行う。

【判定】 承認